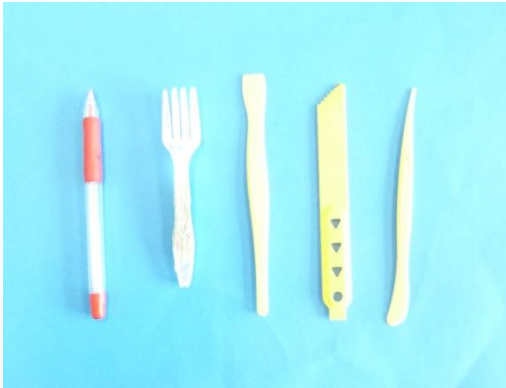



<b>【教材・教具名】</b> ぐるぐるかいてみよう (ひっかき絵)	<b>【教科・領域】</b> 遊びの指導	<b>【対象】</b> 小学部
<b>【対象児童の実態】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレヨンやマジックなどを使って色を塗った経験が少ない。</li> <li>・手が汚れることに抵抗がある。</li> <li>・A4版の紙にマジックでなぐり書きをするようになってきた。</li> </ul>		
<b>【ねらい】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレヨンの色に関心を持ち、ひっかき絵を楽しむことができる。(図工・美術科— ( 1段階 ))</li> </ul>		
<b>【教材・教具の使い方】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●A4サイズの画用紙(【1】予め教師が画用紙にクレヨンで色を塗りその上に黒いクレヨンで塗ったもの、【2】白地で児童がマジックで自由に塗れるもの)</li> <li>●いろいろなペン※1【粘土ペラ(先が山型になっているもの)、フォーク(3つまとめて重なっています)、書けなくなったボールペン】</li> <li>●用紙を押さえる補助具※2(滑り止めシートの上にPPボードを置いたもの)</li> </ul> <div data-bbox="1054 712 1361 781" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">※1いろいろなペン</div> <div data-bbox="938 790 1445 1176" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1007 1229 1390 1312" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">※2用紙を押さえる補助具</div> <div data-bbox="938 1317 1426 1686" style="text-align: center;">  </div> <p>【1】①画用紙を補助具の上にセットする。      ②教師がひっかいて模様を描いて見せる。      ③いろいろなペンでひっかいて遊ぶ。      ④ひっかいた所から、鮮やかな色が出てきたことに気付くことができるように言葉掛けをする。      ⑤完成した絵を教室に飾る。</p> <p>【2】児童が好んで扱っているマジックでA4サイズの画用紙に色を塗らせ、その上に教師が黒色のクレヨンで色を塗り、いろいろなペンでひっかいて遊ぶ。</p> <p><b>【工夫点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙の大きさを腕の動きに合わせた。用紙を小さくすることで色を塗る面積を少なくし短時間で完成できるようにした。</li> <li>・筆圧が弱くても少しの力で模様を描くことができ、かつ、児童が好んで使用しているボールペンを描く道具として使用した。また、安全に扱えるようにプラスチック製のフォークを3つまとめたものや扱いやすい粘土ペラなどを使用した。</li> <li>・児童が好んでいるマジックを下地の色に塗らせた。</li> <li>・滑り止めシートを敷くことで、紙がずれることを気にせず、思い切り描けるようにした。</li> </ul>		
<b>【効果(○)・改善点(●)】</b> <p>○筆圧が弱くても下地に塗ったクレヨンやマジックの色が見えることで、楽しんで腕を動かす様子が見られた。また、児童が普段使い慣れている用具をひっかく道具としたことで、思い切り模様を描くことができた。</p> <p>●児童の道具の持ち方では、3つのフォークの先が全部画用紙に当たるように角度をつけることが難しく、1本しか画面に当たらなかったため、フォークは1つでも十分であった。</p>		

<b>【教材・教具名】</b> きらきらジュース販売機	<b>【教科・領域】</b> 遊びの指導	<b>【対象】</b> 小学部
<b>【対象児童の実態】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心の幅が狭く，自分から物に手を伸ばすことはほとんど見られない。</li> <li>・カラフルな配色やきらきら光る物に視線をとめることが多い。</li> </ul>		
<b>【ねらい】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に関心をもち，興味関心の幅を広げる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（図工・美術科 1 段階—（1））</p>		
<b>【教材・教具の使い方】</b> <b>〔段階 1：きらきらジュースを作ろう〕</b> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空のペットボトルに入れる素材（児童の好みそうなカラフルなビーズやきらきらテープ等）に関心をもつことができるよう，一定期間，繰り返し提示し，素材に慣れさせる。</li> <li>・空のペットボトルに素材を入れて，「きらきらジュース」を児童と一緒に作る。</li> <li>・教師が洗濯のりと素材を適量ペットボトルに入れ，蓋をしっかりと閉めて「きらきらジュース」の完成。</li> <li>・「きらきらジュース」を傾けて，中身の「きらきら（素材）」が動く様子を楽しむ。</li> </ul> </div> </div> <b>〔段階 2：きらきらジュース販売機で遊ぼう〕</b> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きらきらジュース」を「きらきらジュース販売機」上段にセットする</li> <li>・紐を引っ張ると，「きらきらジュース」が取り出し口に落ちてくる。</li> <li>・取り出し口から「きらきらジュース」を取り出して遊ぶ。</li> </ul> </div> </div> <b>【工夫点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〔段階 1〕「きらきらジュース」の中身に，児童が好む小物を入れた。洗濯のりの濃度を調整し，中身がゆっくり落ちるようにした。ペットボトルは児童が持ちやすい重さと形状を吟味した。</li> <li>・〔段階 2〕児童の手の動き（手前に紐を引っ張る動きが見られるようになったこと）を生かした「販売機」の構造にした。児童が自ら手を伸ばすよう，カラフルなブロックを紐の先に取り付けた。</li> </ul>		
<b>【効果（○）・改善点（●）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「きらきらジュース」に自ら手を伸ばして，ペットボトルの底から中身を眺めるようになった。</li> <li>●「きらきらジュース販売機」については，紐を引くこととジュースが出てくることつながりを児童がイメージできるように，紐の長さを調整するとともに，繰り返し取り組ませていきたい。</li> </ul>		

<b>【教材・教具名】</b> 銅箔ふりふり	<b>【教科・領域】</b> 美術・造形グループ	<b>【対象】</b> 中学部
<b>【対象生徒の実態】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の指示や友達の会話をよく聞いている様子で、声掛けを受けると素直に行動することができる。</li> <li>・学習中に、集中が途切れてしまうのが課題である。</li> </ul>		
<b>【ねらい】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柗の葉の葉脈に銅箔を貼り付けた作品制作を行う。座る姿勢や声掛け等に注意し、教師に注目するように促す。また、説明を聞くだけではなくて、説明を受けて実際に体験的な活動を設定することで動きを取り入れ、集中して学習に取り組めるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（図工・美術科 2 段階（2）教材・用具）</p>		
<b>【教材・教具の使い方】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉脈を傷つけずにのり付けするために、スプレーのりを使用する。</li> <li>・振り混ぜる様子を、教師がやってみせる。</li> </ul>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <span>→</span>  <span>→</span>  </div>		
① 銅箔（50枚入）	② 色を付けた葉脈	③ 銅箔を貼った葉脈
<b>【工夫点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅箔は非常に薄く繊細なので、貼り付けの際は、紙袋に入れて振り混ぜる。</li> <li>・見本を用意し、できあがりのイメージをやすくする。</li> <li>・座る姿勢や声掛け等に注意し、教師に注目するように促す。</li> <li>・説明を聞くだけではなくて、説明を受けて実際に体験的な活動を設定することで動きを取り入れる。</li> </ul> <p><b>※銅箔を加工するアイディアは、仙台第三高等学校化学部の発表によるものです。</b></p>		
<b>【効果（○）・改善点（●）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動に最後まで集中して取り組むことができた。</li> <li>○できあがった作品を見て、「面白い」「きれい」等の感想を発表できた。</li> <li>○銅箔の付き具合によって、葉脈の色の変化を楽しむことができた。</li> </ul>		

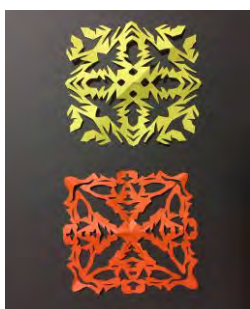
【教材・教具名】 創作切り絵	【教科・領域】 美術・造形	【対象】 高等部
-------------------	------------------	-------------

【対象生徒の実態】  
 ・周囲のことを気にして落ち着かなくなったり、集団の中にいられなくなったりする。  
 ・教師からの指示に対して嫌がったり、面倒くさいと拒否する言動を取ることが多い。気が進まない活動に対しては、雑であったり、集中力がなくなったりする面が見られる。

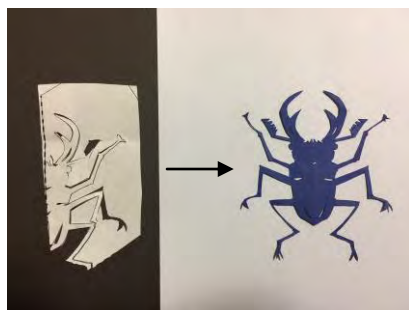
【指導のねらい】  
 ・「切り絵」作りに興味をもち、自分から進んで取り組むことができる。  
 ・一定時間、切り絵作業に取り組むことにより、集中力や注意力を高めることができる。(図工・美術科2段階—(1, 2))

【教材・教具の使い方】  
 ・折り紙や色画用紙、色ラシャ紙に、下絵を描いた紙を重ねて、下絵の線に沿って切り抜く。  
 ・使用する用具は、カッターマット、カッター [中、細]  
 ・下絵用のイラストは、切り紙の本より引用した物と、図鑑等からのコピーをアレンジして、白黒のはっきりとした色分けに加工を施したイラストを使用する。  
 ・自分で、線を描いたり、下絵を描いたりして切り絵を行う。

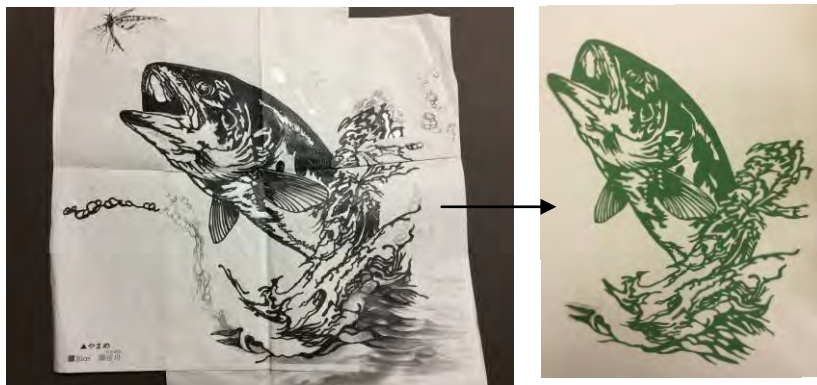
段階1：自由製作



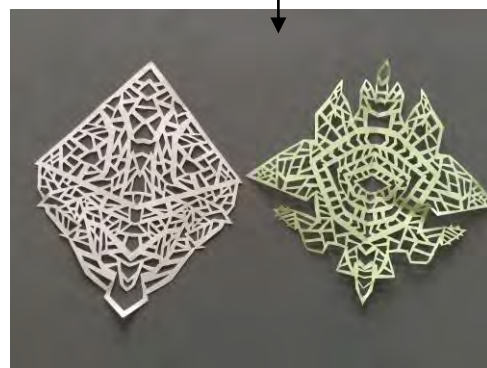
段階2：イラスト切り抜き（切り絵の本からイラスト抜粋）



段階3：写真から切り絵用としてアレンジした下絵の切り抜き



段階4：オリジナル原画を描いて切り抜く（直線で構成した）



【工夫点】

- ・〔段階1〕自由に切り絵に取り組ませる。紙の折り方を変えることを提案してみる。
- ・〔段階2〕興味が持てるような、昆虫や動物、特に魚類のイラストを選んで取り組ませた。
- ・〔段階3〕切り絵を行うことに慣れてきたので、下絵を複雑にして、難度を高めた。
- ・〔段階4〕鉛筆などで印を付けることから、直線だけで下絵を描くなど、自分で意図的に図柄を描く意識を持たせた。

【効果 (○)・改善点 (●)】

- 段階を進めるに従って、「切り絵」に対する興味関心が強くなり、自分から使用する紙を要求するようになり、「切り絵」の図柄も複雑で、難しいものに変容してきた。技術的にも上達してきて、作業中は、とても集中して取り組むことができるようになった。
- 完成した作品についても自分で満足しており、作品を自分から見せて評価を仰ぐようになった。
- 集中して取り組むあまり、他の活動がおろそかになったり、時間に遅れたりする場面が見受けられたため、注意を促した。
- 作業を止めたときの後片付けや用具の管理については、きちんと行えるように声掛けを行っている。



<b>【教材・教具名】</b> 「公募展に応募しよう！」	<b>【教科・領域】</b> 美術・造形	<b>【対象】</b> 高等部
<b>【対象生徒の実態】</b> イラストを描いたり，工作を作ったりすることが得意で手先は器用だが，集中力の持続が課題である。卒業後は一般就労を目指しているの，自ら向上心を持って様々な活動に取り組めるようになると，できることの幅が増えて卒業後の進路にもつながると考える。		
<b>【指導のねらい】</b> ・実線を描く際には様々な種類のサインペン（黒）を使って描き，表現の幅を広げることができる。 ・公募展（キラキラとアートコンクール）の内容を理解し，目的を持って絵を描くことで集中して取り組むことができる。（図工・美術科3段階—（1，2））		
<b>【教材・教具の使い方】</b> ・様々な種類（細い，太い，柔らかい，堅い）の黒のサインペンを用意し，描く対象に合わせて選択できるようにする。 ・公募展を活用して，制作意欲を喚起する。		
<b>段階1：本時の活動について説明</b>		
<b>段階2：下描き用紙にラフ画を描き，イメージを膨らませる</b>		
<b>段階3：画用紙に下描きをする</b>		
<b>段階4：実線を描く（下描きをサインペンでなぞる）</b>		
<b>【工夫点】</b> ・〔段階1〕公募展の概要を分かりやすい言葉で説明する。（パンフレットに載っている昨年の入賞作品を見せながら説明）。 ・〔段階2〕下描き用のコピー用紙にラフスケッチをする。手が止まり，悩んでいるような時は，生徒のイメージが膨らむような言葉掛けをしてアドバイスを行う。 ・〔段階3〕画用紙に描く際には全体のバランスを考えて描くように言葉掛けをする。 ・〔段階4〕様々な種類のサインペン（黒）を使い，描く対象によって選択できるように，一通り試し書きをさせる。また，髪の毛や瞳などの細かい部分を描く際には，教師が手本を示し，描く際の参考にさせる。		
<b>【効果（○）・改善点（●）】</b> ○好きな活動であるため，楽しみながら集中して取り組むことができた。 ○公募展を活用することで，目標ができ，意欲的に創作活動に取り組むことができた。 ○多種のペンを使いこなし，教師の指導を受けながら表現の幅を広げることができた。 ●授業での制作時間がなかなかとれずに家に持ち帰って描くことがあった。→制作時間の確保が課題。 ●今回はモノクロの絵を描いたが，今後は彩色を加えて指導を行い，更に表現の幅を広げたい。		

